

御朱印収集・・・わたしの趣味について

津崎晴功

わたしの趣味は神社仏閣に詣で朱印を戴くことである。更にデジカメで記録、パソコンで整理しホームページに掲載することである。朱印収集と写真、そしてパソコン、称して趣味三位一体。また最近は腰痛対策のサイクリングや蕎麦打ちまで加わった。

中途半端な多趣味と自覚するが、基本は朱印の収集と考えている。そもそも「朱印」とは何かから説かねばならない。「朱印」とは、「宝印」「納経印」とも呼ばれ、その歴史は平安時代にまで遡り、寺院に写経を納め、その証しとして「印」を貰ったのが起源と聞いている。そのあたり、詳しくはわたしのホームページ「御朱印総合研究所」に載せているので割愛する。

最近ブームになっている「西国三十三カ所観音霊場巡り」や「四国八十八

ケ所靈場巡り」では大半の人が参詣の記念に朱印を戴いているはずである。お寺や神社で戴く朱印、それはもちろん記念スタンプではない。書かれた文言や印は、ご本尊や安置される建物を表すものである。畏れ多いので丁重に「御」を付け、わたしは畏敬の気持ちを表し、「御朱印」と呼んでいる。

では、わたしが朱印収集に目覚めたのはいつか？ それは平成二年十二月二十四日、妻と新車の試運転を兼ねて善峯寺まで行き、境内で白い布をドライヤードで乾かす人の姿を見掛けたことに始まる。奇異に思い「何をしているのか？」と尋ねると、「西国三十三カ所靈場巡り」のこと「掛け軸」「朱印帳」「笈摺」など丁寧に教えてくださった。丁度その年の七月に父が亡くなり、何かそれも縁であったのか、妻と語り、すぐにわたしたちもやってみようと売店でグッズ一式を買った。発願の瞬間であった。そして約二年かけて三十三ヶ所を廻り満願成就。これを結願（ケチガン）と言うそうである。

その後東京へ転勤、憧れの単身赴任中に新しい仲間にも恵まれ、共に関東

一円を歩き回った。「坂東三十三ヶ所観音霊場巡り」や「秩父三十四ヶ所巡り」など、東京、埼玉、神奈川、栃木、群馬、茨城といった、神社仏閣巡りでもしなければ縁もゆかりもない遠い所まで出掛けて行つた。

そのうち息子の進言もあり収集目標を一千件に設定。以来常に朱印帳を携帯し、機会があれば逃さず神社や寺院に参詣し数を重ねることになる。その数も今では八百六十五件、少し先が見えた感じもするが、ここに至るには艱難辛苦の幾年月、出張に便乗するなどいろいろと「工夫」と「苦勞」の連続であつた。

ついでながら申し上げると、わたしは仏教徒ではあるが信仰心は「並」である。従つて阿弥陀如来や観音菩薩、さらに八百万の神にお参りしても、願うはただ一つ、妻や息子たち、息子の嫁たち、大事な孫、それに唯一の兄弟である姉の無病息災、これだけを今まで祈り続けている。

八百六十五ヶ所お参りすれば八百六十五の思い出がある。中でも忘れられ

ないものの一つが京都市内の千本閻魔堂での出来事である。約二十年前に火事に遭われたそうだが幸い本堂は無事であった。お参りすると尼さんのご住職がわざわざ本尊の閻魔大王を御開帳、香を焚き燈明まで上げて頂いた。何を思われたかこの尼さん、正座してわたしに向かい「あなたのこれまでの深い罪科の数々をここ閻魔大王の前で懺悔しなさい」とご宣託。「妻の面前でそれはないでしょう」と勘弁して頂いた。尼さんと妻が結託したとは考えられないが、あの絶妙のタイミングには本当に驚いた。

集印の数を目標にすると当然効率を考えるようになる。そこで思い付いたのが「七福神巡り」であった。東京には江戸時代から將軍や庶民に愛された七福神巡りがあちこちにある。谷中、柴又、深川、日本橋、山手など数えればきりが無い。これらは狭いエリアで大半が一日で回れる。一日に七ヶ所ゲット、歩いて回るので費用対効果も抜群である。八月の暑い休日、友と山手七福神を巡り、品川区のあるお寺へ行った。テレビでは夏の高校野球決勝戦

を放送しており、住職はパンツ姿で迷惑そうに出てこられた。何となく違和感をおぼえ、今頃七福神巡りをする人はいないのかと尋ねると、「多くの人は正月から二月にかけて、その年の福を授かるために巡るので、真夏に来る人はまずいない」とのことであった。何ごとにも時期と旬のあることを、あらためて思い知ったのである。

今までに戴いた御朱印はデジカメで撮り、整理番号を付けてパソコンに保存している。注文があればメールに添付してお送りすることができると宣言しているが、友からは未だ一件も要請がない。これからが目標達成のためのラストスパート、少なくともあと百三十五ヶ所はお参りし、更に元気に数が伸ばせるよう精進しようと考えている。

自己満足の趣味とはだいたいこんな程度、それにしても二十冊を超える集印帳、いずれは邪魔になり我が身と共に焼却されてしまうのだろうか。